# 大正新修大藏經索引

第88冊

傳燈部 二下

新文豐出版公司 影印

# 大正新修 大藏經索引

第三十八冊

續論疏部

二下

新文豐出版公司 影印

大正新修 大藏經索引 第38冊 續論疏部二下

中華民國81年4月台1版

精1冊基價15.7元

編集者：大藏經學術用語研究會
發行者：高本釗
發行及印刷所：新文豐出版公司
公司：臺北市雙園街96號
電話：3060757·3088624
門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓
電話：3415293·3415294
台北郵政3643信箱
登記證：局版臺業字第0649號
郵政劃撥：0100442 6號

ISBN 957-17-0447-4（套）

ISBN 957-17-0454-7（第三十八冊：精裝）

# 出 版 說 明

本「大正藏續編索引」第三二至四八册係根據大正新修大藏經續編第五六至八五册所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五册正編部份所作三一册索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，爲使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

**本公司編輯部　謹啟壬申年元月**

# 簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

## ～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆爲觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

**一、法寶總目錄之功用可查下列事項：**

㈠知著者而不知其著作。

㈡知經書而不知著者、譯者。

㈢知經書而不知有無異譯本。

㈣知經書而不知何代、何年、何人之著譯。

㈤知經書而不知內容章節。

㈥知經書而不知在何處（第幾册、幾頁）

㈦知經書而不知有無前人之註解。

㈧查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。

㈨查經書之原名、漢譯名、日譯名。

㈩查經書在各種版本之歸屬。

**二、大藏經索引之功用有下列事項：**

㈠查法相、名數之所在以及定義等。

㈡查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。

㈢查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。

㈣查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。

㈤查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。

㈥查每册藏經之詳細內容以及佛教之觀點。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

『法寶總目錄』共三巨册，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『卍藏』、『卍續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極爲方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五册所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）爲中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙册。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學，高野山大學，駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五册之內容作成索引四十八册以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃爲藍本，分爲分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成爲國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經爲準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分爲中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

1.教　說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說　b三藏　c九分教　d十二分教

2.教　判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說　b大小乘　c一三乘　d各說

3.教　理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說　b各說

4.法　相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說　b色法　c心法　d非色非心法

5.惑　業：有關說明輪迴的惑障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說　b惑　c業　d苦

6.行　位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說　b凡夫位　c聲聞緣覺位　d菩薩位

7.戒　律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說　b各說

8.禪　觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說　b禪定　c觀法

9.世　界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天　c大　d地獄　e餓鬼　f畜生　g阿修羅　h其他

10.佛　：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說　b德性　c佛身　d佛土　e佛名　f諸尊

11.人　名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼　b優婆塞優婆夷　c仙人　d外道　e菩薩　f其他

12.教　派：有關學派、宗派之用語……a學派　b宗派

13.教　團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說　b法規　c僧階　d其他

14.寺　院：有關寺院之用語……a通說　b各說

15.信　仰：有關各種信仰之用語……a通說　b各種信仰（包括稱名唱題等）

16.儀　禮：有關佛事及僧衆等一般儀式、作法之用語……a通說　b佛事　c作法　d僧衆行儀

17.事　相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說　b行法　c四度加行　d護摩　e灌頂　f其他

18.曼 荼 羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說　b各說

19.印　契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說　b各說

20.陀 羅 尼：有關陀羅尼之用語……a通說　b眞言（純密）　c其他

21.外　教：有關婆羅門教，印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說　b婆羅門　c印度諸學派　d儒教　e道教　f神道　g其他

22.咒　術：有關幻化、咒術之用語……a通說　b幻化　c咒術

23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說　b日月星宿　c氣象　d時分　e歲月　f宿曜曆及吉凶日　g方位　h算數　i度量衡

24.地　理：有關地理、地名之用語……a通說　b地名　c山名　d水名　e園林名

25.動　物：有關動物之用語……a通說　b各說

26.植　物：有關植物之用語……a通說　b各說

27.鑛　物：有關鑛物之用語……a通說　b各說

28.物　理：認爲與物理，化學有關之用語……a通說　b色　c形狀　d聲音　e光熱

29.論　理：有關因明，論理學之用語……a因明　b論理。

30.心　　理：認爲與心理學有關之用語

31.倫　　理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）

32.教　　育：有關教育之用語。

33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說　b身體　c出生　d生理　e衛生

34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說　b療法　c病名　d藥

35.民　　族：有關民族、種族之用語……a民族　b種族　c其他

36.社　　會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說　b家族　c身分　d階級　e其他

37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說　b行政　c法律　d財政　e軍事

38.產　　業：有關一般職業之用語……a通說　b職業

39.風　　習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說　b食物　c調味料　d飲料　e衣服　f裁縫　g風俗　h娛樂

40.言　　語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說　b種類　c文字　d文法　e翻譯　f音譯名詞　g其他

41.名　　數：以數目合成之用語

42.典　　籍：有關一般典籍之用語（包括品名）

43.紀　　年：有關年號、干支、王朝等之用語

44.文　　藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說　b本生　c因緣　d譬喻　e文疏　f詩偈

45.音　　樂：有關音樂之用語……a通說　b音聲律呂　c調子　d聲譜　e典目　f樂器。

46.建　　築：有關建築之用語……a通說　b種類　c規構　d技法　e堂舍

47.圖　　像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說　b繪畫　c彫刻

48.工　　藝：有關美術工藝之用語……a通說　b題目　c形像　d素材　e技巧

49.器　　物：有關器具、佛具之用語……a通說　b佛具　c器具

50.雜　　語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前爲止已出版者如下：

甲、印度撰述部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 索引第一册 | 阿含部 | 駒澤大學 | 大正藏第一、二册 |
| 索引第二册 | 本緣部 | 高野山大學 | 大正藏第三、四册 |
| 索引第三册 | 般若部 | 大正大學 | 大正藏第五～八册 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 索引第四册 | 法華涅槃部 | 龍谷大學 | 大正藏第九、第一二册 |
| 索引第五册 | 華嚴部 | 龍谷大學 | 大正藏第九、一〇册 |
| 索引第六册 | 寶積部 | 大谷大學 | 大正藏第一一、一二册 |
| 索引第七册 | 大集部 | 龍谷大學 | 大正藏第一三册 |
| 索引第八册 | 經集部（上） | 駒澤大學 | 大正藏第一四、一五册 |
| 索引第九册 | 經集部（下） | 大谷大學 | 大正藏第一六、一七册 |
| 索引第一〇册 | 密教部（上） | 高野山大學 | 大正藏第一八、一九册 |
| 索引第一一册 | 密教部（下） | 大正大學 | 大正藏第二〇、二一册 |
| 索引第一二册 | 律部（上下） | 駒澤大學 | 大正藏第二二～二四册 |
| 索引第一三册 | 釋經論部中觀部 | 駒澤大學 | 大正藏第二五、二六、三〇册 |
| 索引第一四册 | 毘曇部（上） | 立正大學 | 大正藏第二六～二八册 |
| 索引第一五册 | 毘曇部（中） | 龍谷大學 | 大正藏第二六～二八册 |
| 索引第一六册 | 毘曇部（下） | 大谷大學 | 大正藏第二九册 |
| 索引第一七册 | 瑜伽部（上下） | 立正大學 | 大正藏第三〇、三一册 |
| 索引第一八册 | 論集部 | 龍谷大學 | 大正藏第三二册 |

乙、中國選述部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 索引第一九册 | 經疏部㈠ | 大正大學 | 大正藏第三三、三四册 |
| 索引第二〇册 | 經疏部㈡ | 大谷大學 | 大正藏第三五、三六册 |
| 索引第二一册 | 經疏部㈢ | 龍谷大學 | 大正藏第三七、三八册 |
| 索引第二二册 | 經疏部㈣ | 高野山大學 | 大正藏第三八、三九册 |
| 索引第二三册 | 律疏部論疏部㈠ | 龍谷大學 | 大正藏第四〇、四一册 |
| 索引第二四册 | 論疏部㈡ | 大谷大學 | 大正藏第四二～四四册 |
| 索引第二五册 | 諸宗部㈠ | 立正大學 | 大正藏第四四、四五册 |
| 索引第二六册 | 諸宗部㈡ | 大正大學 | 大正藏第四六、四七册 |
| 索引第二七册 | 諸宗部㈢ | 駒澤大學 | 大正藏第四七、四八册 |
| 索引第二八册 | 史傳部（上） | 大谷大學 | 大正藏第四九、五〇册 |
| 索引第二九册 | 史傳部（下） | 龍谷大學 | 大正藏第五一、五二册 |
| 索引第三〇册 | 事彙部外教部 | 高野山大學 | 大正藏第五三、五四册 |
| 索引第三一册 | 目錄部 | 立正大學 | 大正藏第五五册 |

丙、日本撰述部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 索引第三二册 | 續經疏部(一) | 立正大學 | 大正藏第五六、五七册 |
| 索引第三三册 | 續經疏部（二上） | 高野山大學 | 大正藏第五八、五九册 |
| 索引第三四册 | 續經疏部（二下） | 高野山大學 | 大正藏第六〇、六一册 |
| 索引第三五册 | 續律疏部 | 駒澤大學 | 大正藏第六二册 |
| 索引第三六册 | 續論疏部(一) | 大谷大學 | 大正藏第六三～六五册 |
| 索引第三七册 | 續論疏部（二上） | 龍谷大學 | 大正藏第六五、六六册 |
| 索引第三八册 | 續論疏部（二下） | 龍谷大學 | 大正藏第六六～六八册 |
| 索引第三九册 | 續論疏部(三) | 龍谷大學 | 大正藏第六八～七〇册 |
| 索引第四〇册 | 續諸宗部(一) | 立正大學 | 大正藏第七〇、七一册 |
| 索引第四一册 | 續諸宗部(二) | 大谷大學 | 大正藏第七二～七四册 |
| 索引第四二册 | 續諸宗部（三上） | 大正大學 | 大正藏第七四～七七册 |
| 索引第四三册 | 續諸宗部（三下） | 高野山大學 | 大正藏第七七册 |
| 索引第四四册 | 續諸宗部(四) | 高野山大學 | 大正藏第七八、七九册 |
| 索引第四五册 | 續諸宗部(五) | 駒澤大學 | 大正藏第八〇～八二册 |
| 索引第四六册 | 續諸宗部(六) | 大谷大學 | 大正藏第八三、八四册 |
| 索引第四七册 | 悉曇部 | 大正大學 | 大正藏第八四、八五册 |
| 索引第四八册 | 古逸部、疑似部 | 駒澤大學 | 大正藏第八五册 |

本索引之最大特色爲站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞爲中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教，部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』爲學者不可缺的重要工具書。







此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

# 収 録 典 籍 解 題

本書は，大正新脩大藏經第66卷續論疏部四・第67卷續論疏部五・第68卷續論疏部六に收錄されている次に掲げる諸典籍の索引である。

| 經典番號 | 典 籍 名 | 撰 者 名 |
|---|---|---|
| （第66卷） | | |
| 2264 | 唯識論聞書（二十七卷） | 日本 光 胤 記 |
| 2265 | 唯識訓論日記（一卷） | 日本 光 胤 草 |
| （第67卷） | | |
| 2266 | 成唯識論述記集成編（四十五卷） | 日本 湛 慧 撰 |
| （第68卷） | | |
| 2267 | 成唯識論略疏（六卷） | 日本 普 寂 撰 |
| 2268 | 注三十頌（一卷） | 日本 貞 慶 撰 |
| 2269 | 攝大乘論釋略疏（五卷） | 日本 普 寂 撰 |

**No.2264「唯識論聞書」 27卷 光胤記**

本書は，室町時代の興福寺の學僧である光胤（1396－1487）が，『成唯識論』の訓讀（會讀的講讀）や講義をしたその內容について記錄した書である。これは別名，『光聞記』『成唯識論訓讀記聞書』『成唯識論訓讀聞書』，あるいは『唯識論訓論記』などとも稱される。『大正新脩大藏經』所收本は，藥師寺所藏の英乘による天文年間の寫本を底本としている。

著者の光胤は，興基・營尊・長乘と共に永享の頃の四天王と呼ばれるほどの學僧で，當時の唯識學の復興に貢獻した人物の一人である。本書の他にも『表無表章聞書』や後述する『唯識訓論日記』などをはじめとする多數の著書や論草を殘しており，傑出した學僧であったことが知られる。

本書は唯識學の復興に貢獻した最たるものであり，當時の興福寺の學風とその活發な學問姿勢を知るうえで極めて貴重な資料といってよい。

法相宗所依の論書である『成唯識論』を會讀式に講讀することを「訓論」といい，その際，會座の學僧からさまざまな意見が出され，そこで評定が行われる。その折の筆記錄を整理

したものが「訓論聞書」といわれる。光胤の『聞書』の第一巻から第九巻は，永享9年（1437）の3月2日から興福寺の東北院で行われた約120席におよぶ訓論を収録するものである。ただし，論の第1巻については「又彼破所執和合句義」以下の記録を缺いている。その後，20年あまりたった長錄2年（1458）になって論第10巻の記を收め，もって本書の成立となった。この論第10巻の聞書は，從前のものと執筆年代に開きがあるばかりでなく，記述形態も大きく異なっている。すなわち，全體を三分した內の最初の部分を永秀，次の中間部分を光胤，最後の部分を定淸が擔當した講義錄の形式になっている。もっとも，このうち現存するものはわずか光胤の講義錄のみである。

本書の特色の一つは，まず平易な假名まじりの文章で記されている點にある。いまひとつは，多數の學僧による自由で活發な討議を問答形式で克明に記錄した點にある。永享9年からの會座には，讀師の專慶をはじめとして，光胤・良明房・延帳房・東北院主俊圓・長春房・良善房・琳瞬房・緣春房・藥師寺堯觀房・同懃緣坊などの多數の學僧が參會していたが，その人たちがどのように考え，どのように發言していたかという，その實態がよく知られる。これは，當時の興福寺の學風や思想を知るうえで貴重な資料であると同時に，また唯識教學が生きた思想として活發に研鑽されていたことの證據ともなる。

本書は，善念の『成唯識論泉鈔』などにも多く引用されているように，後世における評價も高く，『唯識論同學鈔』以後の日本唯識を代表する一大雄著といってよいであろう。

**No.2265『唯識訓論日記』　1巻　光胤草**

本書は，室町時代の唯識學僧である光胤（1396－1487）が興福寺において著した『成唯識論』についての注釋書である。『大正新脩大藏經』所收の本書は，享保8年（1723）書寫の藥師寺所藏のものを底本としている。

著者の光胤は前述の『成唯識論聞書』の著者と同一人である。

本書は『大正新脩大藏經』の頁數にしてわずか11頁程度の小部のものであり，論の第1巻・第4巻・第8巻についての注釋で構成されている。すなわち，論の第1巻については數論段と勝論段をとりあげ，第4巻においては四食證と滅定證と染淨證，第8巻においては緣生分別をそれぞれとりあげ，その解釋を試みている。記述の形式は，論の第1と第8の記が個人の論述書，論の第4巻の記が「訓論」の記錄となっている。したがって，それぞれに引用の仕方なども異なっており，本書は各巻の筆記を合册したものとみるのが妥當である。

ところで，「訓論」というのは『成唯識論』を會讀式に講讀することをいい，その際に會座の學僧からさまざまな意見が出され評價が行われ，それを記錄したものが本書の論第4巻の日記である。この「記」は9月1日から5日までの訓論の記を收めているが，いつの年の記錄で

あるかは不明である。このときの讀師は永秀であり，良勝房・忍觀房・定英などの學僧の參集していたことが記されている。

これに對して論の第1と第8の記は，個人の論述書である。本文中に「訓論の時の談なり」とか「ある仁の訓論に不審して云く」などとあるように，あきらかに訓論の記とは異なる。むしろこの2卷は，冒頭の題目の脚註に「委細これを註す」とか「大綱を註す」あるいは「極略略す」などとあるから，唯識教學の一々に對する勉學ノート的なものであったと考えられる。

小部の3册を合册した書であることからも推察されるように，本書の成立年代は不明である。しかし，永享9年（1437）の訓論を記錄した光胤の『唯識論聞書』よりも後に成立したことだけは明白である。なぜならば，本書の讀師である永秀が永享9年の訓論の時にはまだ讀師職についていなかったからである。いずれにしろ，本書は，當時の學風や光胤の唯識思想を知るうえで貴重な價値を有する資料といってよい。

**No.2266「成唯識論述記集成編」　45卷　湛慧撰**

本書は，江戸時代の淨土宗の學者である湛慧（1675－1747）が慈恩大師基の『成唯識論述記』を注釋したものである。『大正新脩大藏經』所收の本書は，大正大學所藏の寛政8年の寫本を底本とし，大谷大學所藏の享保17年の寫本を校本としている。

湛慧は，諱を信培といい，澄蓮社忍譽と號した。同じく淨土宗の學者であった聞證から倶舍と唯識を學び，江戸の靈山寺において廓瑩から宗戒兩脈を相承し，東西に師を求めて修學した。元錄以前の唯識講學は依然として南都にその中心があったが，やがて地方の唯識講學が興隆して南都をしのぐ勢いをみせるようになった。このような南都と地方との逆轉現象の先端をきったのが第一に鳳潭であり，第二には湛慧であったといわれている。

本書は，その湛慧が享保17年（1732）に泉北明王院において『成唯識論述記』を講じたときに撰述したものである。本書の特色の一つは，『成唯識論了義燈』『成唯識論演祕』『成唯識論掌中樞要』『成唯識論義蘊』『成唯識論疏義演』『成唯識論泰抄』などの多くの書を會本のように引用し，わが國の法相唯識の傳統の上に蓄積された說に規制されることのない，直接的な注釋を試みようとした點にある。これは，傳承を排除して，自由かつ直接的に唯識を學ぼうとする當時の學風とよく一致するものである。

本書は，序文と本文とで構成されているが，その序文においてはインド・中國における唯識研究の學風や歷史および唯識各師の說に對する批評が述べられている。本文では『述記』の文章を隨文解釋している。その體裁は，まず『述記』の文をあげ，次に他の書からそれに該當する箇所を抽出して，「私案」「私考」を加えている。その「私案」の中で湛慧は，法相唯識の諸學說を引いて決判している。その立場は傳統教學からいえば「不正義」として排されるべき

類のものかも知れないが，湛慧の傳統に拘束されない自由な見解には注目に値する點が多く存する。湛慧は數多くの書物を會本として用いているが，そのなかでも如理の『成唯識論疏義演』や道邑の『成唯識論義蘊』などを比較的多く用いている。このことは『同學鈔』などには見られない特色の一つと言ってよいであろう。

**No.2267『成唯識論略疏』　6巻　普寂撰**

本書は，江戸時代の淨土宗の學者である普寂（1707－1781）が著した『成唯識論』の注釋書である。『大正新脩大藏經』所收の本書は，長泉院に收藏されている普寂の自筆本を底本としている。

普寂は，淨土眞宗の寺院の生まれであるが，後に淨土宗に轉宗した人物であり，字は德門，號を道光といい，長泉院の開山となった。諸學に通じ，學識ゆたかで，特に唯識は湛慧・天旭に，華嚴は鳳潭に學んだという。そのためか，その學風は傳統的な法相唯識の教學にあくまでも批判的であり，この點では豐山の戒定と雙璧をなすものであったといってよい。

江戸時代に至る迄わが國の中心的地位を占めていた法相唯識の學說は，江戸時代から近代にかけて他宗の唯識學者からさまざまな批判をあびることになった。その批判的な學說のはじまりと考えられる書の一つが，本書である。本書の懸譚十門の第8の「弘傳の得失」には，中國の隋・唐の時代に圓頓墮向上墮の流行したとき，玄奘・慈恩の二師が唯識中道三性二無我の教えを明したことはよいことであったが，その後の法相宗の所說は乘教の綱紀に順じない，という批判がみられる。本書は，そのような法相宗の犯した誤りに陷らないようにという意圖をもって，彼獨自の解釋を示したものである。

本書は，『述記』の科段に準據して『成唯識論』の本文を科別し，その意味を簡潔に示そうとしている。從來の唯識教學が新譯家の說のみに依據していたのに對して，舊譯家の說を重くもちいて法相宗の傳統的な教學を批判的に解釋している點にその特色がある。また，法相教學において異說として位置づけられていた安慧の說を高く評價し，安慧說こそ正旨を得たものであるとしている點にも特色がある。普寂は，法相教學において正義の說と位置づけられている護法の教學を大乘始教にすぎないとし，安慧の教學はそれよりも一段すぐれた大乘終教に近い教えであるとみていたのである。このような普寂の唯識思想解釋の立場は，多分に華嚴學の影響によるものであり，舊譯を過度に尊重しすぎるきらいのあることも否定しえないところである。しかし，新譯家の說に偏向しない自由な唯識教學の展開を示した點では，日本の唯識思想史上，高く評價されてしかるべき書ではないかと考えられる。

江戸時代の唯識研究の特色は，傳統的教學に拘束されることなく自由に『成唯識論』や『述記』などの原意を探求しようとする點にあったといってよいが，本書はそれをさらに一歩すす

めて傳統教學を批判しつつ，唯識思想の解明を試みようとした名著の一つであるといってよい。

**No.2268「注三十頌」1巻　貞慶撰**

本書は，鎌倉時代の法相宗の學匠である解脱房貞慶（1155－1213）が世親の『唯識三十頌』を簡潔に注釋した書である。『大正新脩大藏經』所收の本書は，興福寺の古寫本を底本として，明德三年寫の藥師寺本を校本としたものである。

貞慶は，法相宗中興の祖とあおがれる大學匠であり，「唯識の眞實」を求めて傳統教學に執われることなく，さまざまな新しい解釋を示した人物としてよく知られている。彼は菩提院藏俊の門に入って叔父にあたる覺憲から唯識を學び，『唯識論尋思鈔』や『心要鈔』『勸誘同法記』『修行要鈔』などの多數の唯識關係の書物を著し，唯識の研鑽と顯揚につとめた。そして，このような改革的な唯識教學の展開は良遍へと繼承されていく。その貞慶が，法相宗の根本聖典である世親の『唯識三十頌』を注釋したものが本書である。

『唯識三十頌』は，宗前敬敍分と依教廣成分と釋結施願分の三段よりなっている。30の頌が示されるのは，このうちの依教廣成分においてであり，本書の注釋の重點もそこにおかれている。世親の30の頌を解釋するには，①相性位唯識　②初中後唯識　③境行果唯識の三方面からの解釋が可能であるが，本書では第1の相性位の唯識のみの解釋が示されており，あとの二つは「初の解により略す」と記されている。したがって，本書の30の頌に對する注釋は，初の24頌は「唯識の相」を明かすもの，また次の第25頌は「唯識の性」を明かすもの，殘りの5頌は「唯識の位」を明かすものとの見解に立って解釋しているといってよい。具體的には，三能變・四重勝義・唯識行位について解釋するものとなっている。

世親の『唯識三十頌』は唯識學派の根本聖典とされるもので，古來からたくさんの注釋書が作られた。そのなかで法相宗の所依の書とされたのが，護法等の『成唯識論』10巻であった。以後，この『成唯識論』に對して，『成唯識論述記』『成唯識論掌中樞要』『成唯識論了義燈』などの多くの注釋書が作られた。唯識を學ぶものはこれらをすべて研究する必要があったが，初學者にとってそれは困難なことであった。そこで，教義や思想の概要あるいは綱格を一目で知らせてくれる入門書的な書物の出現が望まれた。本書は，そのような要請にこたえて，後學の育成のために著された書物の一つであり，『成唯識論』と『述記』の文をもって，簡潔に『三十頌』を注釋した書である。

なお，本書の末（119a—b）に「一觀非安立諦有三品心。一者依觀所取能取。二緣安立諦有十六心。二者依觀下上諦觀」の文があるが，これは，實際には「一觀非安立諦有三品心。二緣安立諦有十六心。一者依觀所取能取。二者依觀下上諦觀」となるのが正しい。

**No.2269「攝大乘論釋略疏」　5巻　普寂撰**

本書は，江戸時代の浄土宗の學者である普寂（1707－1781）が，世親の『攝大乘論釋』を注釋した書である。『大正新脩大藏經』に收錄されている本書の底本は龍谷大學所藏の寫本であり，『日本大藏經』所收本を校本としている。

世親の『攝大乘論釋』の譯本には，眞諦譯の十五卷本（陳代）と達磨笈多等譯の十卷本（隋代）および玄奘譯の十卷本（唐代）の合計三譯が存したが，普寂はこの中の眞諦譯の十五卷本について注釋を行っている。普寂在世當時，『攝大乘論釋』の注釋書は皆無であった。「僧傳」や「章疏目錄」等によれば，眞諦や玄奘の譯出した『攝大乘論釋』に對する注釋書は數十にのぼったというが，いずれも散逸して傳わらなかった。このような中にあって普寂は，經論等の資料を廣く尋ね，眞諦譯の『攝大乘論釋』の注釋を試みたのである。

普寂は世親の『攝大乘論釋』を隨文解釋するにあたって十門を開き，そのうち九門を懸證とした。その九門とは，1教興所因，2藏教所攝，3所詮宗趣，4能詮教體，5教所被機，6依止差別，7遣除情計，8矯救時弊，9傳譯不同である。この九門のうち，第五門までは通常の注釋形式を踏襲するものであるが，第六門以降は普寂獨自の注釋姿勢を明らかにするものといってよい。

すなわち，まず第六の依止差別門において普寂は，「護法正義」という奈良以來の傳統的唯識の立場に疑問をなげかけ，從來の唯識においては不正義とされていた安慧等の說の方が「始より終に向かう」より勝れた教えであると判じたのである。そして，『攝大乘論』は本來は大乘始門に配されるべき論であるが，內容的には「始より終に向かう」趣をもつ論であるとの評價を下した。また，第七の遣除情計門においては，緣起系の佛教は有に墮しやすく，實相系の佛教は空に執われやすいとして注意をうながした。その背景には法相唯識が「惡しく空を取る」ことを嫌うあまりに妄有におちいっているという傳統唯識への批判姿勢があったといってよいであろう。そして，さらに第八の矯救時弊門において，像末の時代になると大乘佛教においても多くの弊害があらわれるとして四種の弊を示し，新譯家の人々（玄奘三藏のながれ）が舊譯の『攝論』を誤譯とするのは偏見であると批判し，舊譯の『攝大乘論』には權より實に入る密旨があると說いた。最後に第九の傳譯不同門において普寂は，『攝大乘論』と『攝大乘論釋』にそれぞれ三譯ある中で，とくに眞諦譯の『攝大乘論釋』を選んだ理由を明らかにし，これらに對する多くの注釋書が散逸して傳わっていない現狀について論じ，第十の隨文解釋に入っている。

そこに示される普寂の注釋姿勢は，從來の法相唯識の固定概念を超えようとするものであり，かつまた自らの修めた華嚴の立場に基づくものであったといってよかろう。このことは，



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com